

目的 演者はこれまでの研究において、国民健康保険加入世帯の医療費における世帯負担率を全国3、272市町村ごとに計算し、その全国分布と地域格差を示し、世帯負担率が極端に高い市町村、極端に低い市町村、および平均的な市町村についての世帯負担率の詳細な分析を行ってきた。今回はそれらをふまえたうえで、世帯負担率がどのような要因に影響を受けて決定しているのか、また、地域格差が何によって生じているのかを明らかにする試みを行なった。

方法 資料はこれまでと同様に、各市町村が作成した『国民健康保険事業状況報告書（事業年報）』を用い、さらに厚生省『医療施設・病院調査報告』、『医師・歯科医師・薬剤師調査報告』などのデータをも加えた。今回は、全国3、272市町村の中から500市町村をランダム・サンプリングにより抽出した。分析方法は重回帰分析による。被説明変数を世帯負担率とし、説明変数として、国庫支出金、都道府県支出金、市町村補助金、他法負担金、老人保健負担金、老人割合、総務費、保険料軽減額、保険料限度額超過による減免額、平均基準所得額、医療機関数、医師数などを用いてそれぞれについて検討した。

結果 それぞれの要因について、世帯負担率にたいする説明力を明らかにできた。同時に、若干の新しい知見も得られたので、それを報告する。